

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	介護予防の推進
区分	自立支援・介護予防・重度化防止

現状と課題

- 令和2年度実施の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果より
 - ・「うつ・転倒リスク」3割強、外出を控えている理由「足腰の痛み」5割、「生きがいがある」5割
 - ・要介護認定者の原因疾患より「認知症」「脳血管疾患」「骨・関節疾患」「骨折・転倒」が高順位
- 男性の介護予防活動の取組みについて実態把握が必要である。
- 健康寿命を延ばし、高齢者が長く社会の中で役割を持ち活躍できることを目指す。

第8期における具体的な取組

- ①介護予防普及啓発
高齢者の健康づくりや介護予防に関する知識の普及啓発、地域の通いの場での出前講座を開催する。
- ②地域介護予防活動の支援
住民主体の通いの場づくりを支援し、高齢者自らが健康づくりや介護予防に継続的に取り組むことを支援する。また、リハビリテーション専門職と連携し取り組みを強化する。
- ③介護予防・生活支援サービスの提供体制の充実
自立支援に基づく適切な介護予防ケアマネジメントを行う。また、多様なニーズに対し、提供体制を整え介護予防や生活支援を推進する。

目標（事業内容、指標等）

事業内容・指標	令和3年度	令和4年度	令和5年度
介護予防講座			
開催回数	20	30	30
参加者数(延)	400	600	600
地域つながりサロン			
グループ数	37	37	37
いきいき百歳体操			
グループ数	26	26	27
シルバーリハビリ体操教室			
開催箇所数	7	10	15
訪問型サービス			
訪問介護(延)	240	264	276
通所型サービス			
通所介護(延)	1,272	1,284	1,296
短期集中通所型(実)	8	10	10
訪問・通所一体型(実)	10	15	15
介護予防ケアマネジメント			
延人数	1,080	1,120	1,150

目標の評価方法

●時点・・・実績評価のみ

●評価の方法

- ・事業実施回数及び参加延人数が目標値に到達できたか。
- ・次期計画策定時のアンケート調査における関連項目（基本チェックリスト・生きがい・地域活動など）によるアウトカム評価

年度	令和4年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

実績評価

実施内容				
事業内容		R4 度実績値	R4 度目標値	達成率
介護予防講座（認知症予防含む）	開催回数	21	30	56.7%
	参加者数(延)	316	600	42.5%
地域つながりサロン	グループ数	37	37	100.0%
いきいき百歳体操	グループ数	26	26	96.2%
シルバーリハビリ体操教室	開催箇所数	26	10	260.0%
訪問型サービス	訪問介護(延)	274	264	104.5%
通所型サービス	通所介護(延)	989	1,284	77.0%
	短期集中通所型(実)	4	10	40.0%
	訪問・通所一体型(実)	10	15	66.7%
介護予防ケアマネジメント	延人数	642	1,120	57.3%

・介護予防講座：地域の通いの場等でフレイル予防や口腔機能低下予防などについて、普及啓発を行った。また、町広報やケーブルテレビ等で体操の紹介などの普及啓発を行った。

・地域つながりサロン・いきいき百歳体操：地域住民が主体となり、身近な場所で体操やレクリエーションなどを通して地域の方が交流している。ひきつづき感染対策を講じた活動ができるよう支援を行った。

自己評価結果 【○または◎】※

- ・シルバーリハビリ体操教室は、体操の普及啓発を目的に地域つながりサロンに周知をしたことで開催箇所数は増加した。
- ・通所型サービスはコロナ禍の影響や事業の周知不足などにより、達成率は低い状況であった。
- ・介護予防ケアマネジメントでは、延べ人数の減少がみられる。

課題と対応策

- ・各種団体との協力・連携し、ひきつづき介護予防の普及啓発に努め住民の介護予防の意識の底上げを図る。
- ・「住民主体の通いの場」「自主グループ活動」を今後も継続できるよう、委託先と連携し取り組みの支援をしていく。また、地域の実情に応じた介護予防活動をリハビリテーション専門職と協働し、高齢者の自立支援を推進していく。
- ・訪問型サービスは、令和5年度から訪問型サービスAや生活支援体制整備事業における有償ボランティアを創設し体制を強化していく。
- ・通所型サービスは、令和5年度から短期集中通所型サービスを委託し、サービス提供体制を整えて実施していく。
- ・ひきつづき、高齢者の自立支援を目的に継続的包括的ケアマネジメントを実施していく。必要に応じて委託先への支援を行う。

※「◎達成できた ○概ね達成できた △達成はやや不十分 ×全く達成できなかった」

年度	令和3年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

実績評価

実施内容				
事業内容		R3 度実績値	R3 度目標値	達成率
介護予防講座	開催回数	14	20	70%
	参加者数(延)	189	400	47.2%
地域つながりサロン	グループ数	37	37	100%
いきいき百歳体操	グループ数	26	26	100%
シルバーリハビリ体操教室	開催箇所数	16	7	228.5%
訪問型サービス	訪問介護(延)	276	240	115%
通所型サービス	通所介護(延)	1,148	1272	90.3%
	短期集中通所型(実)	0	8	0%
	訪問・通所一体型(実)	7	10	70%
介護予防ケアマネジメント	延人数	810	1,080	75%

・介護予防講座では、フレイル予防について、町広報への掲載や、ケーブルテレビ等で介護予防の取り組みや家庭でできる体操の紹介などの普及啓発を行った。

・地域つながりサロンやいきいき百歳体操では、地域住民が主体となり、身近な場所で体操やレクリエーションなどを通して地域の方が交流している。コロナ禍のため、感染対策を講じた活動ができるよう支援を行っている。

・シルバーリハビリ体操教室では新型コロナウイルスの感染対策を講じて教室を開催した。また、地域つながりサロンにチラシを配布し、10か所でシルバーリハビリ体操を行った。

自己評価結果 【○または△】※

- ・ コロナ禍により、対面型の介護予防講座開催の中止等により開催回数は減少した。
- ・ 訪問型サービスは地域における訪問型サービスが不足の傾向にある。
- ・ 通所サービスにおける短期集中通所型はコロナ禍により実施できなかった。

課題と対応策

- ・ 今後も各種団体との協力・連携し、媒体等活用し介護予防の普及啓発に努める。
- ・ シルバーリハビリ体操教室については、今後も引き続き、「住民主体の通いの場」を充実させるため、継続的に支援をしていく。また、地域の実情に応じて、リハビリテーション専門職と協働し自立支援の取り組みを推進していく。
- ・ 訪問型サービスについては、生活支援体制整備事業において、有償ボランティアの担い手育成や仕組みづくりに取り組み、令和4年度からの運用を目指す。
- ・ 令和4年度は、通所型サービスの短期集中通所型を実施予定。
- ・ ひきつづき、高齢者の自立支援を目的に継続的包括的ケアマネジメントを実施していく。必要に応じて委託先への支援を行う。

※ 「◎達成できた ○概ね達成できた △達成はやや不十分 ×全く達成できなかった」